

2014年(平成26年)1月11日 土曜日

男鹿で「子ども育成フォーラム」

学校、家庭、地域連携を

大館の児童ら事例発表

「男鹿の子どもを創る未来を創る館市釈迦内地区の「釈迦内子ども育成フォーラム」が8日、男鹿市民文化会館で開かれた。学校、家庭、地域が連携した教育環境の構築をテーマに、事例発表やパネルディスカッションが行われた。秋田大学男鹿なまはげ分校、男鹿市、市教育委員会の主催。

五十嵐校長は、地元企業や主婦たちの協力を得ながら、児童にヒマワリの栽培から種の収穫、食用油製造、流通販売までの全過程を体験させていることを紹介。「総合学習のスケジュールを弾力的に運用すれば時間は確保できる。社会と関わり、行動することで児童たちの学習意欲の向上にもつながっているようだ」と話した。

市内小中学校の教員ら約150人が参加。ヒマワリの種子を原料にした食用油の製造販売を通じ、地域を挙げて子

児童たちは、ヒマワリを原料にしたお茶やマヨネーズといった新商品を開発したことや、昨年10月の「本場大館きりたんぼまつり」でブースを

設けて販売したことなどを発表した。パネルディスカッションでは、サンフラワープロジェクトの風景賢悟実行委員長らと

男鹿市の教育関係者が意見交換。男鹿なまはげ分校の濱田純分校長による学力向上をテーマにした講演もあった。(安藤伸一)



ヒマワリの食用油の販売体験について発表する釈迦内小の児童たち